

堂会
槃賛
涅奉

アマガキアマチャ収穫

茶葉に加工販売へ

河津町産物として活用

河津町沢田の涅槃（ねはん）堂奉賛会（後藤治也会長）は5日、地区内で栽培されたアマガキアマチャの収穫作業を実施した。会員や町内の有志ら約30人が参加して、刈り取りと葉の採取に当たった。茶葉に加工し、年明けに販売を始める予定。

（下田支社 福島安世）



アマガキアマチャの刈り取り作業に
当たる参加者＝河津町沢田

アマガキアマチャは伊豆半島の山地に自生するヤマアジサイの一品種。同地区では田中修さん（74）、勢津子さん（68）夫妻が10年ほど前に自宅敷地で栽培を始めた。やがて奉賛会が加工した茶葉を地域活動で活用するようになり、栽培面積も約600平方メートルに広がった。本年度は町観光協会がインバウンド（訪日客）向け体験ツアーの提供メニューに甘茶を「天城甘茶」が町の産物として活用を図ることも知ってもらえれば」と期待した。

ケージデザインなども

一新していくという。収穫には昨年に続いて静岡大農学部 학생들이 地域連携応援プロジェクトの研究活動の一環で参加し、会員らに交じって作業に汗を流した。同大学院の厚味莉歩さん（修士1年）は「『天城甘茶』は『コミュニティをつなぐ軸のようなものになると思う。そのため』の協力をしていきたい」と話した。田中さん夫妻は「葉の出番をただで感謝している」など、活用の広がりを喜び、後藤会長は「みんなで作業を楽しみ、和が広がるのはうれしい。『天城甘茶』が町の産物として広がり、涅槃堂の産物として活用されることを期待した。」